４－１．<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育の考え方

第４回検討会議における意見に基づき、<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育プログラムのあり方についてまとめます。
また、<旧気仙沼向洋高校>の公開活用における展開案について検討します。

［<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育とは（案）］

基本的なあり方

●<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育は、震災遺構として伝えられる**“ありのままの姿”を核として、教育・普及プログラム（講座等の企画や語り部等）や展示（漂着物展示や解説パネル、端末を活用した映像）等により展開**する。

主たる対象

●<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育は、**次世代に東日本大震災の記憶と教訓を伝えることを重視**し、子供たち（**修学旅行**、**学校団体**見学等）を主たる対象として位置づける。特に気仙沼市内の小・中・高校に関しては十分な活用が図られるようにする。

●気仙沼における防災・減災の取り組み、復興のあり方等について、広く他の地域に資するものとするため、他の自治体や企業、団体等の**教育旅行**、**復興視察**も重視する。

●団体対応のほか、**市民や観光客**に対しても、震災遺構の公開（解説パネル、語り部によるガイド等）、展示により、わかりやすく防災・減災の情報が伝えられるようにする。

防災・減災教育のテーマ

●気仙沼市の震災復興の基本理念は、「二度と繰り返さないこの悲劇」と「自然に対する畏怖・畏敬の念」である。これをふまえ、**東日本大震災の悲劇とその記憶を伝えることを核**とする。

伝承検討会議での検討方針 → 事実を記憶に留める → 正しい知識を学ぶ → 被害をもたらした原因を探る → 防災・減災のための方法を考える

●度重なる津波被害の歴史を持ちながらも、**“海と生きる”ことを選んできた気仙沼の歴史、地域性についても紹介し、「自然と共に生きる」ことを伝えていく**。

［重視する視点と展開（案）］

重視する視点		展開（案）	
体感する	「震災とはいかなるものか」震災遺構の姿を通して体感する。それを通して、「震災」を知らない人々（世代）への関心の喚起とともに、記憶の風化を防ぐ。	震災遺構	●［外観］"3.11 という事実"を体感する ●［南校舎 3F］　津波の威力を体感する ●［南校舎 4F］　津波の高さを体感する ●［南校舎屋上］津波の威力を体感する　等
		展示室	※［北校舎］既存校舎再利用のため体感装置は設置できない ※［新施設］施設規模上、体感装置の設置は難しい
知る	残される記憶・記録を通して「3.11」の事実を知るとともに、「次の震災」に向けて知るべき知識を知る。	震災遺構	●［外観］津波で失われた姿 ●［南校舎 3F］　どこから車が運ばれてきたか ●［南校舎 4F］　津波が 4F に到達した速さとその時生徒たちはどうしたか ●［南校舎屋上］津波の方向と被災時の様子　塩田の歴史　等
		展示室	●［共通］航空写真に基づく被災状況、復興状況等 ●［共通］"3.11”の規模等全貌情報の説明 ●［共通］気仙沼と津波の歴史、災害の仕組み ●［共通］“海と生きる”気仙沼の復興の説明 ●［北］　"3.11”の気仙沼市記録写真等 ●［新］　保管漂着物の公開展示、人々の物語　等
		普及スペース	●［共通］"3.11 その日”、"地震と津波"、"自助・共助”、"防災・減災”、等に関する「語り･講座」 ＊［北］　複数会場で展開可能 ＊［新］　1 団体一つのプログラムの展開　等
考える	それぞれの地域でどのような災害が起こりやすいのか、「もしものとき」のために事前に何をすべきか、その時にどうすべきかを考える。	震災遺構	●［南校舎 4F］　「もしも」は起こるということ、その時にどう行動するか ●［南校舎屋上］各地で起こりうる災害、防災・減災に取り組んでいるか　等
		展示室	●［共通］"3.11"当日の人々の行動、命を救った行動、やるべき行動の説明、来館者それぞれの防災の取り組みや意識等に関する問題提起　等
		普及スペース	●［共通］「防災・減災」等をテーマとして、ゲーム式など楽しみながら知識を得ることができるプログラム（テーマ："災害へ備えるための知識"、"自助・共助としてできること”等）
身につける	気仙沼で知り、考えたことを、各地域に持ち帰ってどのように身につけるか、具体的なアクションとして考える。		●［共通］<旧気仙沼向洋高校>で得た知識、感じたことを自分なりにまとめる「自分防災ハンドブック」等の作成（有料プログラムとしての展開）　等

４－２．<旧気仙沼向洋高校>における防災・減災教育の展開イメージ

展開イメージの前提　：東京から修学旅行で訪れた中学生が<旧気仙沼向洋高校>で体験できること・学べること

Ⅰ案　**全体を現状保存（内部公開しない）　＋　記念館相当施設を新規整備**　※現状保存対象：南校舎、北校舎、総合実習棟

①11:00～11:15
仙台から団体バスで気仙沼に到着。
<旧気仙沼向洋高校>を初めて目にする。
記念館（仮）で基本的なレクチャーとスケジュールの説明を受ける。

【バスの中で】
○学校の事前学習で学んだことを、バスの中で思い出しながら、現地でこの目で実際に確かめようと思う。

【震災遺構外観を見て】
○テレビやＷｅｂのニュース映像で知ってはいたけれど、ボロボロになった校舎の姿が近づいてくると、初めてみる期待と不安が入り混じった気持ちになる。

【レクチャーを受けて】
○レクチャーで見学時の注意事項を聞き、不安が解消され、しっかり見て帰ろうという心構えができる。

【検討事項】
◇生徒ひとりひとりの感受性の違いに配慮が必要。
◇見学の事前、現地、事後、それぞれで対応。

②11:15～11:45
100 名の生徒は 50 名ずつ、震災遺構見学班と展示見学班に分かれる。震災遺構見学班として、ガイド（生徒 10 名に 1 名）の解説を聞きながらフェンス越しに遺構を見学。

【震災遺構を見て】
○目の前いっぱいに広がる壊れた校舎の迫力に、津波の破壊力の凄まじさを体感する。
○事前学習で思っていたものより、はるかに悲惨な現実の姿に恐怖を感じる。

【ガイドの話を聞いて】
○津波到達の速さと高さを聞いて怖くなった。
○不安の中で過ごした励まし合い協力しながら過ごした被災者のリアルな言葉に胸が詰まる。
○屋上から津波が来た方角と襲った範囲の広さや高さを知り怖くなった。

【検討事項】
◇見学動線上の安全面、衛生面への配慮が必要。

③11:55～12:35
記念館の休憩スペースに集合し、昼食。記念館のレストランから出されるお弁当とお茶を受け取り、休憩スペースか周辺の芝生広場で昼食。

【芝生広場での食事】
○いま津波に襲われたらどのように行動すればよいのかと思う。
○震災時の食事の話を聞いたあと、今の自分の食事を比較して、普段の平和な暮らしに感謝を覚える。

【検討事項】
◇見学時と食事時間の気持ちの切り替え方の工夫。
◇外部からの仕出し弁当提供の仕組みづくりの検討。
◇被災当時の食事の体験も検討する。
・品目を同じにする。（量は通常量）
・給食班（配膳）と衛生班（片付け）に分かれて行動。
◇救護所の用意（見学後に気分が悪くなった生徒等）。

④12:40～13:10
展示見学班として記念館の展示を見学。リアルな漂着物展示やパネルやタブレット端末を用いた震災に関するシンプルでわかりやすい解説でいろいろなことを知る。

【展示を見て】
○漂着物の種類、数の多さに驚く。
○保管漂着物それぞれの持ち主たちの、失われてしまった生活を思う。
○タブレットの映像や写真をこの場で見て、地震、津波の凄まじさ、恐ろしさを実感。
○震災を乗り越え、復興へさまざまな取り組みをする人たちの姿を知る。
○人々と海とのかかわり、災害を乗り越えてきた歴史を知って、それでも気仙沼で生きようとする人々の郷土愛の深さを感じる。

【検討事項】
◇「本物」を重視した展示。
◇グループ行動とは別に、個人個人がそれぞれ震災に向き合い、考えられる場の確保。

⑤13:15～13:45
講座室で語り部のお話を聞く。見学だけではイメージできなかった 3.11 当日の様子を知る。また、首都直下型地震の可能性についての説明を聞き、グループで自分たちの防災・減災について話し合う。

【ガイドの話を聞いて】
○見てきたばかりの校舎の姿と、語り部の言葉が重なり、当時の様子をより深く理解する。
○災害に対する日々の備え（知識、訓練、意識、持出品等）の多さを知って、驚く。

【話し合い、シミュレーションゲームをして】
○「自助防災ハンドブック」を作りながら、自分の通っている学校や、住んでいる自宅、街の災害への対策に、まだまだ足りないことがあることに気付く。

【体験・学習を終えて】
○今日、学んだことを友人や、家族に教えたいと思う。

【検討事項】
◇自分の環境に置き換えて考えさせる仕掛けの用意。
◇体験を共有する仕掛け（掲示板、ＳＮＳ等）の開発。

⑥14:05
ショップコーナーで防災・減災についての本と、ほやボーヤのキャラクターグッズを買う。その後、トイレに寄ってバスに乗り込む。
<次の目的地へ出発>

【ショップ】
○見学記念としてガイドブック（またはワークシート）を買う。
○日頃の備えとして、防災グッズ、非常持出用品を買う。
○地域振興に役立ちたいと思い、地場産品を買う。

【パンフレット・カタログ】
○今度は家族と一緒に来てみたいと思う。（学習、観光）
○地元に帰ってからも復興に協力したいと思う。
（観光ガイド、通販カタログ等）

【検討事項】
◇防災、減災に役立つ商品の開発。
◇復興、地域活性化につながる商品、仕掛けの開発。

展開イメージの前提　：東京から修学旅行で訪れた中学生が<旧気仙沼向洋高校>で体験できること・学べること

Ⅱ案　南校舎に見学ルートを整備（内部公開する）　＋　北校舎上層階を記念館として活用　＋　総合実習棟１Ｆを活用

①11:00～11:15
仙台から団体バスで気仙沼に到着。
<旧気仙沼向洋高校>を初めて目にする。
北校舎資料館の多目的室で基本的なレクチャーとスケジュールの説明を受ける。

【バスの中で】
○学校の事前学習で学んだことを、バスの中で思い出しながら、現地でこの目で実際に確かめようと思う。

【震災遺構外観を見て】
○テレビやＷｅｂのニュース映像で知ってはいたけれど、ボロボロになった校舎の姿が近づいてくると、はじめてみる期待と不安が入り混じった気持ちになる。

【レクチャーを受けて】
○レクチャーで見学時の注意事項を聞き、不安が解消され、しっかり見て帰ろうという心構えができる。

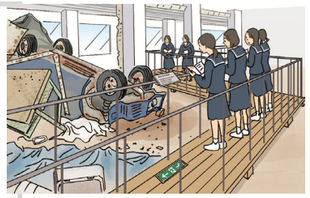
【検討事項】
◇生徒ひとりひとりの感受性の違いに配慮が必要。
◇見学の事前、現地、事後、それぞれで対応。

②11:15～11:45
100 名の生徒は震災遺構見学班と展示見学班に分かれ、それぞれ 10 名グループで見学開始。自分は遺構見学から。南校舎の見学ルートは探険のような感じで、皆、興奮している。「自分防災・減災ハンドブック」をしっかり手に持つ。

【震災遺構を歩いて】
○そこかしこにある震災の傷跡、建物の中を吹き抜ける風音など、震災時の恐怖をリアルに感じる。
○話を聞くだけではなく、その場に立って、本物を目にすることの大切さに気付く。

【ガイドの話を聞いて】
○先生や生徒が、それぞれどのように震災と向き合って、何を思ったのか、想像しながら巡る。

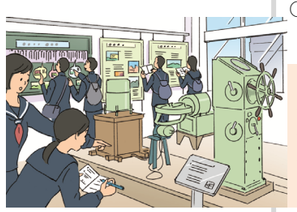
【検討事項】
◇見学動線上の安全面、衛生面への配慮が必要。



③11:45～12:30
北校舎資料館の展示を見学。震災について、また気仙沼の歴史等について知る。「自分防災・減災ハンドブック」の質問に沿って、展示を見ながら知ったこと、感じた事を記入していく。

【展示を見て】
○航空写真や解説パネルで津波の規模や仕組みを知る。
○濁流の中を流れる家や車が校舎にぶつかるなど、想像もできない危険があること、津波の破壊力を知る。
○今いる場所がまさに避難の場所だったことを感じながら、「完全避難」を実現した、災害を生き抜く知恵（自助）、助け合い（共助）の大切さを知る。
○避難所での人々の協力や役割分担を知り、自分だったら何ができるのかと思う。

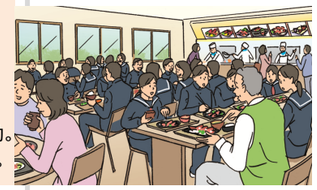
【検討事項】
◇「本物」を重視した展示。
◇「震災遺構の中にいる」ことを伝える展示。
◇グループ行動とは別に、個人個人がそれぞれ震災に向き合い、考えられる場の確保。



④12:40～13:30
旧総合実習棟のレストランを借り切り、昼食。食事のメニューは気仙沼の海の幸を味わえるもの。ガイドから、気仙沼の郷土料理について話を聞く。トイレ休憩も済ませる。

【郷土の食材】
○郷土の食材を使った料理を、その場で食べる美味しさを知る。
○郷土食の中に、人々と海とのかかわりの長い歴史、たくさんの知恵があることを知る。
○“海と生きる”という言葉が秘める「恵み」について、実際に味わいながら体感する。

【検討事項】
◇見学時と食事時間の気持ちの切り替え方の工夫。
◇現地調理ではなく外部からの仕出し提供も検討。
◇被災当時の食事の体験も検討する。
・品目を同じにする。（量は通常量）
・給食班（配膳）と衛生班（片付け）に分かれて行動。
◇救護所の用意（見学後に気分が悪くなった生徒等）。



⑤13:35～14:15
講座室で語り部のお話を聞く。見学だけではイメージできなかった 3.11 当日の様子を知る。また、首都直下型地震の可能性についての説明を聞き、グループで自分たちの防災・減災について話し合い、ハンドブックに書き込む。

【ガイドの話を聞いて】
○見てきたばかりの校舎の姿と語り部さんの言葉が重なり当時の様子をより深く理解する。
○災害に対する日々の備え（知識、訓練、意識、持出品等）の多さを知って驚く。

【話し合い、シミュレーションゲームをして】
○「自分防災・減災ハンドブック」を作りながら、自分の通っている学校や、住んでいる自宅、街の災害への対策に、まだまだ足りないことがあることに気付く。

【体験・学習を終えて】
○今日、学んだことを友人や、家族に教えたいと思う。

【検討事項】
◇自分の環境に置き換えて考えさせる仕掛けの用意。
◇体験を共有する仕掛け（掲示板、ＳＮＳ等）の開発。

⑥14:35
ショップで防災・減災についての本と、ほやボーヤのキャラクターグッズを買う。その後、トイレに寄ってバスに乗り込む。
<次の目的地へ出発>

【ショップ】
○見学記念としてガイドブック（またはワークシート）を買う。
○日頃の備えとして、防災グッズ、非常持出用品を買う。
○地域振興に役立ちたいと思い、地場産品を買う。

【パンフレット・カタログ】
○今度は家族と一緒に来てみたいと思う。（学習、観光）
○地元に帰ってからも復興に協力したいと思う。
（観光ガイド、通販カタログ等）

【検討事項】
◇防災、減災に役立つ商品の開発。
◇復興、地域活性化につながる商品、仕掛けの開発。

展開イメージの前提　：東京から修学旅行で訪れた中学生が<旧気仙沼向洋高校>で体験できること・学べること

Ⅲ－ａ案　全体を現状保存（内部公開する）　＋　記念館相当施設を新規整備

①11:00～11:15
仙台から団体バスで気仙沼に到着。
<旧気仙沼向洋高校>を初めて目にする。
記念館（仮）の休憩スペースで基本的なレクチャーとスケジュールの説明を受ける。

【バスの中で】
○学校の事前学習で学んだことを、バスの中で思い出しながら、現地でこの目で実際に確かめようと思う。

【震災遺構外観を見て】
○テレビやＷｅｂのニュース映像で知ってはいたけれど、ボロボロになった校舎の姿が近づいてくると、はじめてみる期待と不安が入り混じった気持ちになる。

【レクチャーを受けて】
○レクチャーで見学時の注意事項を聞くことで不安はなくなり、しっかり見て帰ろうという心構えができる。

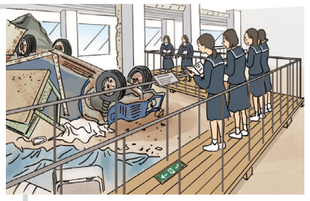
【検討事項】
◇生徒ひとりひとりの感受性の違いに配慮が必要。
◇見学の事前、現地、事後、それぞれで対応。

②11:15～12:00
100 名の生徒は 50 名ずつ、震災遺構見学班と展示見学班に分かれる。震災遺構見学班として、ガイド（生徒 10 名に 1 名）の解説を聞きながらエレベーターに向かう。見学通路に従って見学。

【震災遺構を歩いて】
○そこかしこにある震災の傷跡、建物の中を吹き抜ける風音など、震災時の恐怖をリアルに感じる。
○話を聞くだけではなく、その場に立って、本物を目にすることの大切さに気付く。

【ガイドの話を聞いて】
○先生や生徒が、それぞれどのように震災と向き合って、何を思ったのか、想像しながら巡る。

【検討事項】
◇見学動線上の安全面、衛生面への配慮が必要。



③12:00～12:40
記念館の休憩スペースに集合し、昼食。記念館のレストランから出されるお弁当とお茶を受け取り、休憩スペースか周辺の芝生広場で昼食。

【芝生広場での食事】
○いま津波に襲われたらどのように行動すればよいのかと思う。
○震災時の食事の話を聞いたあと、今の自分の食事を比較して、普段の平和な暮らしに感謝。

【検討事項】
◇見学時と食事時間の気持ちの切り替え方の工夫。
◇外部からの仕出し弁当提供の仕組みづくりの検討。
◇被災当時の食事の体験も検討する。
・品目を同じにする。（量は通常量）
・給食班（配膳）と衛生班（片付け）に分かれて行動。
◇救護所の用意（見学後に気分が悪くなった生徒等）。

④12:45～13:15
展示見学班として記念館の展示を見学。リアルな漂着物展示やパネルやタブレット端末を用いた震災に関するシンプルでわかりやすい解説でいろいろなことを知る。

【展示を見て】
○漂着物の種類、数の多さに驚く。
○保管漂着物それぞれの持ち主たちの、失われてしまった生活を思う。
○タブレットの映像や写真をこの場で見て、地震、津波の凄まじさ、恐ろしさを実感。
○震災を乗り越え、復興へさまざまな取り組みをする人たちの姿を知る。
○人々と海とのかかわり、災害を乗り越えてきた歴史を知って、人々の郷土愛の深さを感じる。

【検討事項】
◇「本物」を重視した展示。
◇グループ行動とは別に、個人個人がそれぞれ震災に向き合い、考えられる場の確保。

⑤13:20～13:50
講座室で語り部のお話を聞く。見学だけではイメージできなかった 3.11 当日の様子を知る。また、首都直下型地震の可能性についての説明を聞き、グループで自分たちの防災・減災について話し合う。

【ガイドの話を聞いて】
○見てきたばかりの校舎の姿と語り部さんの言葉が重なり当時の様子をより深く理解する。
○災害に対する日々の備え（知識、訓練、意識、持出品等）の多さを知って驚く。

【話し合い、シミュレーションゲームをして】
○自分防災・減災ハンドブック」を作りながら、自分の通っている学校や、住んでいる自宅、街の災害への対策に、まだまだ足りないことがあることに気付く。

【体験・学習を終えて】
○今日、学んだことを友人や、家族に教えたいと思う。

【検討事項】
◇自分の環境に置き換えて考えさせる仕掛けを用意。
◇体験を共有する仕掛け（掲示板、ＳＮＳ等）の開発。

⑥14:10
ショップコーナーで防災・減災についての本と、ほやボーヤのキャラクターグッズを買う。その後、トイレに寄ってバスに乗り込む。
<次の目的地へ出発>

【ショップ】
○見学記念としてガイドブック（またはワークシート）を買う。
○日頃の備えとして、防災グッズ、非常持出用品を買う。
○地域振興に役立ちたいと思い、地場産品を買う。

【パンフレット・カタログ】
○今度は家族と一緒に来てみたいと思う。（学習、観光）
○地元に帰ってからも復興に協力したいと思う。
（観光ガイド、通販カタログ等）

【検討事項】
◇防災、減災に役立つ商品の開発。
◇復興、地域活性化につながる商品、仕掛けの開発。